

令和4（2022）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）

種名	ヒラメ	対象水域	北海道（日本海～津軽海峡域）
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、北海道立総合研究機構 中央水産試験場	協力機関名	

1. 調査の概要

北海道立総合研究機構中央水産試験場が実施している各種漁獲物・生物調査および北海道立総合研究機構水産研究本部が公表している資源評価結果（中央水産試験場・稚内水産試験場・網走水産試験場 2022）による資源量および漁獲量の推移等を参考に現在の資源の水準および動向を判断した。

2. 漁業の概要

北海道におけるヒラメは宗谷総合振興局オホーツク海側から道西日本海、津軽海峡を経て胆振、日高振興局海域に分布し、日本海と津軽海峡で主に漁獲される。定置網、刺し網、へらびき釣りで主に漁獲される。1980年代後半では定置網による漁獲が全体の5割以上を占めたが、近年では刺し網による漁獲が増加している（藤岡 2003）。中央水産試験場（2022）によると、対象海域における1985年度からの漁獲量は1999年度を除いて500～1,300トンで、2016～2020年度の漁獲は600～900トン台で推移しており、2020年度の漁獲は707トンであった（図1）。また、近年の漁獲の主体は2～3歳魚となっている（図2）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：北海道では日本海から津軽海峡に多く分布し、東部の太平洋やオホーツク海にはほとんどみられない（藤岡 2003）。水温が上昇する春季に浅海域に移動し、秋季には沖合に分布域を移す。また、9月までは北方向への移動傾向を示し、11～12月には南下する個体が増加する（中央水産試験場・稚内水産試験場・網走水産試験場 2022）。
- (2) 年齢・成長：雄では3歳で全長40 cm、5歳で47 cmに達し、雌では3歳で46 cm、5歳で58 cm、9歳で68 cmに達する（中央水産試験場・稚内水産試験場・網走水産試験場 2022）。
- (3) 成熟・産卵：雄では2歳から成熟する個体が見られ、全長29 cm以上で50%以上の個体が成熟する。雌では2歳から成熟する個体が見られ、全長41 cm以上で50%以上の個体が成熟する。産卵期は6～8月頃で、産卵水深は20～50 mである。孵化後の仔魚は浮遊生活を送り、変態期に岸近くに移動する（中央水産試験場・稚内水産試験場・網走水産試験場 2022）。
- (4) 被捕食関係：仔稚魚期は動物プランクトン（かいあし類、尾虫類）、着底期の稚魚はアミ類、未成魚～成魚は魚類、エビ類、イカ類等である（藤岡 2003）。

4. 資源状態

北海道立総合研究機構中央水産試験場が公表している資源評価（中央水産試験場2022）では、1997年以降の資源量はおよそ1,800～3,400トンで推移している。2016～2018年度は4歳以上の高齢魚の漸増により、資源重量は増加したが、2020年度（2020年8月～翌年7月）は2、3歳魚が減少したことから2,153トンとなった（図3）。資源重量から、2020年度の水準は中位、今後の資源動向は横ばいと判断した。

5. 資源回復などに関するコメント

1995年以降、資源管理協定に基づき未成魚保護のため小型魚の水揚げ制限が実施されている。また、1996年以降種苗放流が行われている（中央水産試験場2022）。

6. 引用文献

- 中央水産試験場 (2022) ヒラメ (日本海～津軽海峡海域). 2022 年度北海道周辺海域における主要魚種の資源評価書, 北海道立総合研究機構水産研究本部,
https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/17_Japaneseflounder_JSTsugaruSt_2022.pdf
- 藤岡 崇 (2003) ヒラメ. 「漁業生物図鑑 新北のさかなたち」水島敏博・鳥澤 雅監修、北海道新聞社, 札幌, 232-237.

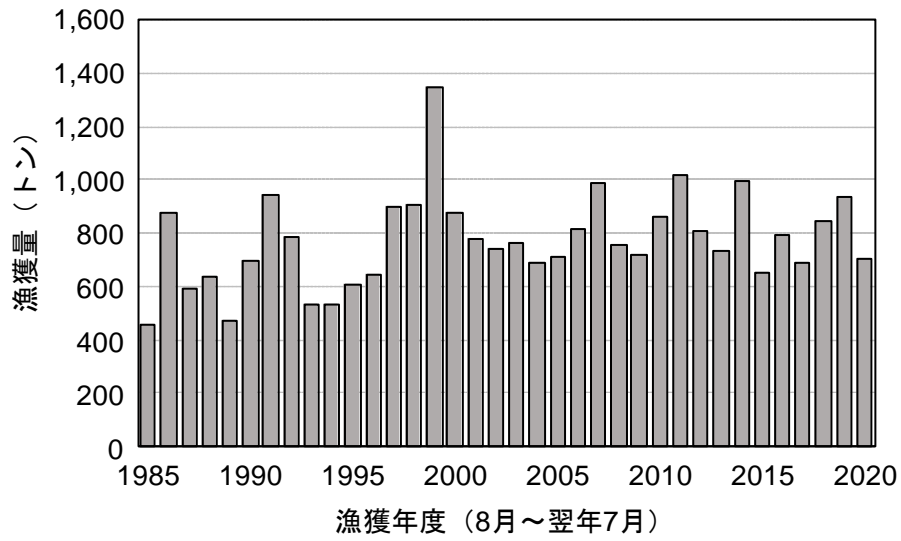


図 1. 北海道の日本海～津軽海峡海域におけるヒラメの漁獲量の推移（中央水産試験場 2022 を改編）

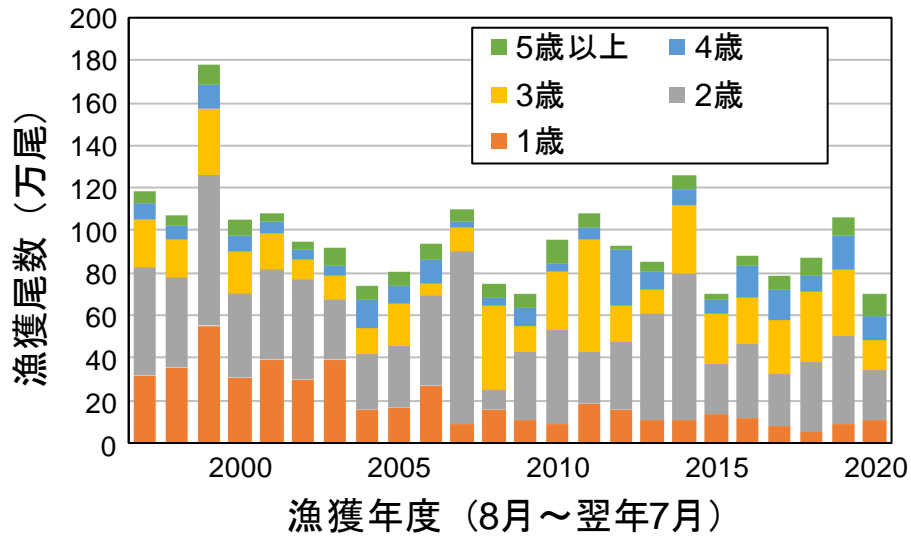


図 2. 北海道におけるヒラメの年齢別漁獲尾数の推移（中央水産試験場 2022 を改編）

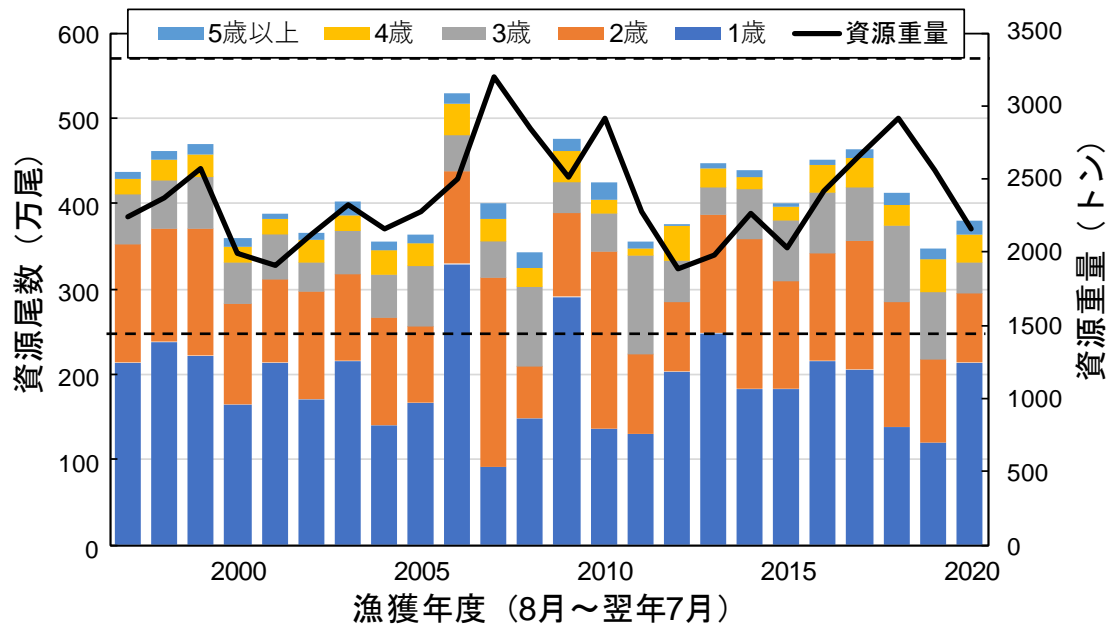


図3. 北海道におけるヒラメの年齢別資源尾数および資源重量の推移
 破線はそれぞれ高位水準と中位水準、中位水準と低位水準の境界を示す。
 (中央水産試験場 2022 を改編)